

海運の重要性を学校教育の場で
～三郷市内の小学校で出前授業を実施～

当協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、商船や海事施設等の見学会、授業への協力等に取り組んでおります。

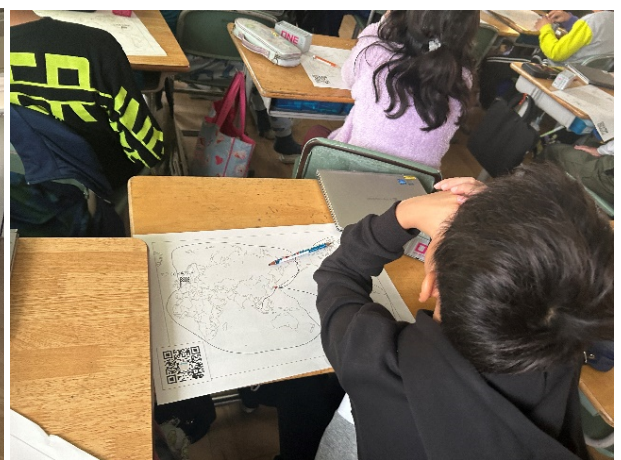
11 月 20 日（水）に、昨年に引き続き、埼玉県三郷市立立花小学校の 5 年生約 30 名を対象として海運に関する出前授業を行いましたので、その模様をお知らせします。

授業では、はじめに日用品のイラストが描かれたワークシートを配布、身の回りのもので外国から輸入していると思うものに丸をつけてもらい、その多くが貿易を通じて海外から運ばれてきていることを実感してもらいました。その後、クイズを交えながら、海運が日本の貿易量の 99%以上を担っている事とその重要性について説明し、日本の生活には海運が欠かせないことを伝えました。児童たちは、海上輸送の割合の大きさに驚いている様子でした。



身の回りの輸入品を考える児童

次に、自動車産業を例に挙げ、自動車部品の原材料の多くは海外から船で輸入しており、運ぶものに応じて様々な船の種類があることを紹介した他、日本から輸出される自動車の大半を自動車船で運んでいることについて、効率よく大量の荷物を運ぶための工夫や、航空機と比較して安く運ぶことができることなど船による輸送のメリットを挙げて説明しました。更に、アメリカ東海岸やヨーロッパへ運ぶ際の航路を配布した地図に描きこんでもらい、東海岸への航路で通過するパナマ運河の仕組みについて動画も交えて解説しました。パナマ運河と同じ仕組みの見沼通船堀（さいたま市）についても紹介しました。



（左）自動車船一隻に積める車の台数クイズで盛り上がる様子 （右）自動車船の航路を考える児童

授業後には、「一隻の船を造るのにいくらお金がかかるのか」「パナマ運河は作るのにどれくらいの時

間がかかったのか」「船の事故は起きるのか」「コンテナは一ついくらか」「船主協会はどんな仕事をしているのか」等々、児童たちからたくさんの質問が出て、海運や船に強く関心を持ってくれた様子でした。先生からは、日本の貿易や、貿易における海運の役割・大切さについて、実感を持って学んでいる様子が見られた、との感想をいただきました。

当協会は、出前授業等を通じて、海運をはじめとした海事産業を学校教育において取り上げていただけるよう引き続き活動を展開してまいります。

以上